

マイクロスコープによる 歯科医学教育と自己研鑽の両立

Dental education and self-improvement through
microscopic dental practice

菅原 佳広 先生

Dr. Yoshihiro Sugawara, DDS, PhD

月潟歯科クリニック

徳島大学非常勤講師

Tsukigata Dental Clinic (Niigata Prefecture, Japan)

Adjunct Lecturer, Faculty of Dentistry, Tokushima University

日時: **December 6** (Wed) 18:30-19:30

場所: **歯学部 講堂** (Faculty of Dentistry, Auditorium)

マイクロスコープの普及率が大幅に伸びて、今や『近所の歯医者さんでもマイクロスコープを使って治療してくれる』のは珍しいことではありません。近い将来は当たり前のこととなる可能性が高く、そうなると使わずに歯科治療を行うことに患者が不信感をいだくという逆転現象がおこるかもしれません。このような時代の臨床教育をどのように変えていくのが望ましいか演者の経験をもとにお伝えしたいと思います。

マイクロスコープは明瞭な拡大視野が得られることにより精密な治療が可能となるツールであることは間違いありませんが、そのためだけに使用するのはとても勿体ないことです。治療技術に長けた術者であれば高倍率のルーペで、それ以上の治療結果を導きだすことも可能だと思います。マイクロスコープを使う最大のメリットは映像記録の活用です。学生や研修医の教育にこの映像記録がとても役立ちます。リアルタイムでモニターに写し出す登院自習や基礎実習でのデモンストレーションも、録画編集した映像を用いた教室での講義も理解度の向上に役立ちます。そして何よりその処置を行っている術者が一番学べるのです。撮影して編集することにより自らが行った処置を反省することができます。また、常に第三者から治療内容が高倍率で明瞭にみられる環境で治療しなくては行けませんので、ごまかすことのできない緊張感が技術向上につながります。そしてすべてを公開しているスタンスが信頼感につながっていくと思います。そのようなマイクロスコープにまつわる周辺部分についてお話しさせていただきたいと思います。

※ 本セミナーは大学院口腔科学研究科の大学院特別講義を兼ねております

This seminar is a graduate special lecture at the Graduate School of Oral Sciences.

連絡先: 再生歯科治療学分野 保坂 啓一・中西 正

Contact: Regenerative Dental Medicine

Keiichi HOSAKA, Tadashi NAKANISHI

主催: 徳島大学研究クラスター

「接着歯学&光工学との最先端融合による<Super Tooth>創生
~次世代の低侵襲接着再生歯科治療への展開~」